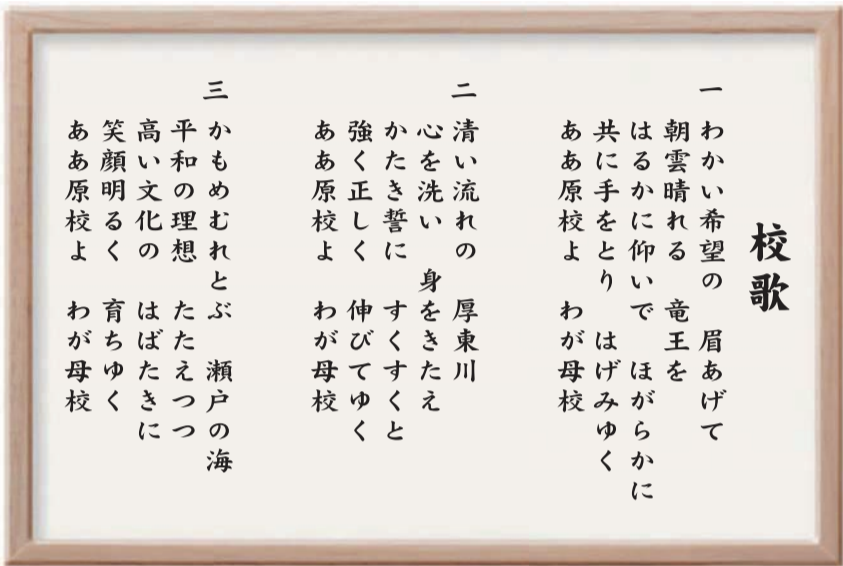


創刊110周年記念
誇れるふるさと
 24地区リレー
 〈vol.14〉

〈原③ 小学校歌〉

原小（吹上静恵校長、2009年）は、JR妻崎駅から南に約400メートルに位置し、瀬戸内海、厚東川、竜王山が展望できる高台にある。1943年、石炭産業の発展による児童数の急激な増加に伴い、厚南小から独立する形で開校。49年に校章、校訓が制定され、校歌も誕生したと、同校50年誌に記されている。

開校尽力の地元有志、熱意反映



校歌

一 わかい希望の 眉あげて
 朝雲晴れる 竜王を
 はるかに仰いで ほがらかに
 共に手をとり はげみゆく
 ああ原校よ わが母校

二 清い流れの 厚東川
 心を洗い 身をきたえ
 かたき誓に すくすくと
 強く正しく 伸びてゆく
 ああ原校よ わが母校

三 かもめむれとぶ 瀬戸の海
 平和の理想 たたえつつ
 高い文化の はばたきに
 笑顔明るく 育ちゆく
 ああ原校よ わが母校

「高い文化のはばたきに」理想表現



原小学校

作詞は友影武雄さん、作曲は河野かよ子さんというが、これ以外に校歌誕生に関する記述は無く、詳しいことは分から

ない。吹上校長は「開校に深く関わった南部懇話会の熱意、同時期に制定された校訓に込めた思いが、校歌に反映されている」と推察する。

南部懇話会は、当時の地元有志で組織。旧厚南村の南端に暮らした原の人々は、農漁業をしていたが生活は苦しく、文化にも恵まれていなかったという。地域の発展には教育の普及、小学校を建てるのが急務と考えた会員たちは、用地や資金を出し合い、学校建設に力を尽くした。それを顕彰する碑が、今も校舎入り口にある。

校歌3番の「高い文化のはばたきに 笑顔明るく 育ちゆく」の詞は、懇話会の理想を表現したと考えられる。

また、校訓は当初、低学年に向けた「強く、正しく、朗らかに」と、高学年用の「健康、誠実、明朗」の2通りが制定された。50年誌に記載がある。校歌の「ほがらかに 共に手をとり はげみゆく」「強く正しく 伸びてゆく」のフレーズは、校訓と重なる。

現在は「つよく、正しく、朗らかに」の校訓の下、学校と家庭、地域が一体となって自らを律し心豊かに学び合う「原の子」の育成を進めている。南部懇話会から始まった地区の教育振興に対する熱意は今に受け継がれ、住民の学校行事への協力、地域行事への児童の参加、スポーツ少年団の活動などが盛んという。原っ子たちと校歌を照らし合わせ、吹上校長は「子どもらしい、朗らかな児童が多い。外遊びが好きで、見晴らしのいい校庭を駆け回り、すくすくと成長している姿が、歌詞と合致する。元気に歌い継いでいきたい」と話す。

同校は来年度、創立80周年を迎える。節目を機に、卒業生、地域の結束強化をホームページで呼び掛けており、校歌を聞けるようにしている。